

◆飯塚市◆

第6回福岡県竹林サミットin飯塚「里山保全と竹の利活用」
～飯塚市穂波公民館大ホール～ 10月6日～7日

～驚き！竹の生命力と山の自然～

➡ [詳細はこちら](#)



美しい里山の風景

福岡県は国内有数の竹の産地で、今から数十年前まではタケノコ栽培や竹工芸が盛んでした。しかし、外国から安いタケノコが輸入され、日用品がプラスチックに置き換わるようになると、これまでの産業が立ちゆかなくなり、竹林は次第に放置されるようになりました。

竹は生命力が強く、地下にある茎は、毎年3メートルというスピードで周囲に伸び、そこから数多くのタケノコが伸び出し、わずか2・3カ

月で高さ10数メートル、元気な竹だと、20数メートルにまで育ちます。そして枝葉が大きく広がることで周りから光を奪い、今まで育っていた植物を弱らせ、いつの間にか、山が竹藪に変わってしまいます。



280人集まりました



竹に侵食された森

竹の侵食から森林を守るためにできる事とは。

こうした竹にまつわる問題を話し合う「里山の保全と竹の利活用について考える：第6回福岡県竹林サミット」が開催され、2日間で22団体、約280人が参加しました。

サミット1日目、県内で活動している7団体の活動報告がありました。その主な内容を要約すると、①竹林をある程度残して公園として活用している例、②竹林を全て伐採し、桜や落葉広葉樹に植え替える例、③採れたタケノコを使って名物料理を作る例、④竹をチップ化して肥料として活用する例、⑤竹炭を作って水質浄化に役立てる例、⑥竹細工をつくる例の発表があり、大きく分けると“竹を駆逐する派”と、“竹を活用する派”に分けられました。

発表された方々



バンブーオーケストラってなんだ？

サミット2日目には、3歳から80歳代の男女30人でつくる那珂川町の“竹楽器サークル”「バンブーオーケストラ那珂川」が珍しい演奏を披露しました。このオーケストラの特徴は、メンバーそれぞれが山から竹を切り、自分達で楽器を作って演奏する事です。

竹細工が盛んだった同町の職人が、試しに楽器を作ったところ、多くの賛同者が集まり、こんなに大きなオーケストラに成長しました。当日は、「川の流れのように」や、「上を向いて歩こう」などを演奏し、素朴な音色が会場をやさしく包み込んでくれました。



竹ってけっこう良い音がするんです。



楽器は全て竹林から生まれました。



年齢層の広いメンバー達

第28号
平成24年11月



➡ 詳細はこちら

国土交通省 遠賀川河川事務所では、小中学校の児童・生徒さん向けに「川で学習する取り組み」を支援しています。

川に棲む水生生物や植物の調査、水質調査、川の流れのはたらきなどに関する学習のお手伝いを主に行っており、今回はいくつか具体的な取り組みをご紹介します。

月日	学校名	場所	学年	人数	天候
10月18日	直方市立北小学校	学校内	5年生	39人	晴れ
10月16日	直方市立下境小学校	彦山川	4年生	43人	晴れ
10月3日	田川市立後藤寺小学校	中元寺川	4年生	37人	晴れ
9月19日	田川市立伊田小学校	彦山川	4年生	58人	晴れ
9月11日	田川市立弓削田小学校	中元寺川	3年生	69人	曇り・小雨
9月6日	飯塚市立上穂波小学校	山口川	3年生	45人	晴れ

直方市立北小学校編 ～校内～ 10月18日

5年生の児童は、理科の授業の一環で「川の流れのはたらき」について、川に見たてた模型を使って学習しました。この装置は、傾斜させた土台上に砂を敷き、川の流れのような曲線を作り、上から水を少しずつ流しながら流れの様子を観察するものです。蛇行している川の内側と外側の流れの違いを見るために、内側には青い旗を、外側には赤い旗を立て、家や木の模型を置いて、流れる様子を調べました。

「この模型が近くの川の流れだと思って見てください」と説明があり、水が流れました。みるみる砂が削られて家や木の模型が流されると、児童達は「本当の川もこんなに流れが変わるの？」「場所によって流れる速さが全然違う。」とびっくりしていました。



平成24年 7月 添田町



まずは、流れる川のはたらきを学びます。

砂で直線の川をつくり水を流していきます・・・

曲線にして流れの速さの違いを確認します。

直方市立下境小学校編 ～下境第二排水樋管～ 10月16日



Before
コンクリートの水路が・・・

After
程よい小川になってます

直方市にある下境第二排水樋管は、従来コンクリートでできた人工的な水路でしたが、平成22年3月エコロジカルネットワーク再生事業によって、自然豊かな水路に生まれ変わりました。

4年生の児童は、この新しい小川の水質検査や、水生生物調査を行いました。完成したばかりで、水生生物はいるのか？魚は泳いでいるのか？、以前の姿を知っている子どもたちは興味津々に調査を始めました。

古いコンクリートは取り払われ、水路は程良い土の小川になりびっくり。小魚やエビ、カニなど小さな生物もたくさん泳いでいます。喜んだ児童たちは夢中で網を振り大はしゃぎ。メダカ、小エビとともに100匹以上も採れ、生物にとって適した環境となっていることが分かりました。

続いて行われた水質検査では、「川の水は卵のようなおいがした」、「臭い」という意見が多数。「生き物の数と水のキレイさはあまり関係ないの？」と不思議そうでした。



コンクリート水路だったのがウソのようです。



メダカ、小エビがたくさん泳いでいます！



メダカは絶滅が心配されてます。

田川市立後藤寺小学校編 ～中元寺川水辺公園～ 10月3日

4年生の児童たちが、学校近くを流れる中元寺川の水生生物調査と、水質調査を行いました。

今回の調査では、スジエビなど100匹以上を短い時間で捕まえることができ、参加した児童は「近くの川にこんなに生き物があるなんておどろいた」「道具を使って小さな生き物が大きく見えておもしろかった」などの感想を述べていました。



絶好のコンディションです



大きく見ると怖いな～



うわあ、たくさん泳いでるよ

ここ「番田河原」は、田川市で最大のお祭りである「川渡り神幸祭」が行われる所で、市民にとって特に親しまれている空間です。



毎年5月に神幸祭が開催されます



神幸祭の舞台となる番田河原

本校では例年、4年生にここでの水生生物調査と水質調査を行うことが恒例となっています。調査当日、集まった児童達は「ふだん川に入る事がないのでこわい」、「水が汚なそうでいや」など、少々不安な様子。最初は恐る恐る川に入っていましたがすぐに慣れ、いつの間にか夢中になって生き物を調べ始めました。

今回の調査では「ヒラタカゲロウ類・ナガレトビグサ類・ヘビトンボ」などの昆虫や、魚ではギギやヨシノボリ・カマツカなどが見つかりました。



石の裏に隠れている生き物には筆を使います



これ何かな？

これまでの調査では見られなかった“普段きれいな水にしか生息しない”と言われる生物、植物が数多く見つかりました。こうした事は、毎年同じ時期、同じ場所で調査しなければわからないことで、継続する事の大切さを感じました。

田川市立弓削田小学校編 ～中元寺川水辺公園～ 9月11日

今から2年前、中元寺川（彦山川の支川）沿いに「中元寺川水辺公園」が完成しました。新たに誕生した地域の憩いの場を、3年生が調査しました。

広い河川敷があるため、透視度計やCODパックテストなどの水質調査も、水を川から汲んですぐに調査できました。水生生物も捕まえたらすぐに図鑑とコラメッコ。参加した子どもたちは、「名前がすぐにわかって良かった」「小さな生き物がこんなにいるなんてすごい」と感想を述べていました。



子どもたちの安全管理には目を配ります



石のしたに生き物がかくれてるよ



パックテスト



自分たちで調査します

飯塚市立上穂波小学校編 ～山口川～ 9月6日

3年生が、山口川の水生生物調査、水質調査をしました。

今回の調査場所は一見、コンクリートに囲まれた人工的な河川のように見えます。しかし、よく見ると川底には大きな石がゴロゴロしていて、何か動いているのがよく見えます。よく見ると、なんとサワガニがウジョウジョ動いています！

案の定、調査が始まるやいなや児童たちはサワガニに夢中。また、ヨコエビ類・ヒラタカゲロウ類・ナガレトビグサ類・ヘビトンボ、カワナナなど、予想に反してたくさんの生物が見つかりました。児童たちは、「階段が急で普段はこの場所（川）には立ち入らない。そんな場所にカニが多くておどろいた」「石の下にたくさん生き物がいて、石をどかすのが楽しかった」と感想を述べてくれました。身近なところにいた生き物に興奮さみでした。



コンクリートにかこまれた人工的な河川の様だが・・・



大小色々な岩がたくさん転がっています。大きな石の間からサワガニがたくさん顔をだします。



小さなカニの宝庫！これはほんの一部です。

いかがでしたか？今回紹介したのは、国土交通省が学校の屋外授業をお手伝いする事業の一部です。すでに今年度の募集は終了していますが、来年度以降も行っていきますので、興味のある学校関係者の方は国土交通省 遠賀川河川事務所 河川環境課 0949-22-1830までご連絡ください。

遠賀川河川事務所からのお知らせ

遠賀川河口堰の魚道が、平成25年度に生まれ変わります。

1. 遠賀川と海をむすぶ“魚の出入り口(魚道)”



「遠賀川河口堰」を知っていますか？遠賀川の河口からおよそ2 kmのところ、遠賀川の水を取るための堰があります。河口堰は、住民の生活や工業の発展のためにとっても大切な役割を果たしていますが、その一方で堰があると、海と川の両方で暮らし、成長するサケやアユなどの魚が海と川を行き来できなくなってしまいますので、河口堰には段階式の魚道が設けられています。でも、現在の魚道は落差が大きいことなどから、大きさ等の異なるさまざまな種類の魚が行き来しやすいとはいえないため、いろいろな魚が利用しやすい魚道への改善を進めています。

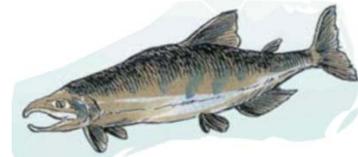


落差の大きい今の魚道

2. コンクリートから土へ

現在、もともとある魚道と堤防の間の河川敷に、小川のような魚道を整備しています。来年度に完成する予定ですが、すでに魚道に水は流れており、その魚道の中でミミズハゼや、泳ぐ力があまり強くないツチフキなどの魚が見つっています。

魚道の整備とあわせて、その周辺も多くの人に楽しみ、安らいでいただけるような空間にしていきたいと考えていますので、完成までもう少しお待ち下さい。



遠賀川のシンボル“サケ”が帰って来るのも楽しみです。



コンクリートで覆われた河川敷



コンクリートをはぎ取り、自然な小川のような新しい魚道



スミウキゴリ



ツチフキ

新しい魚や、泳ぐ力の弱い魚が見つかりました。

12月1日	土	飯塚市	遠賀川 流域活動団体報告会	NPO法人遠賀川流域住民の会
12月8日	土	田川市	田川市 タガツパ学校	田川ふるさと川づくり交流会
12月13日	木	嘉麻市	献鮭祭	嘉麻市
12月23日	日	田川市	田川市 川を愛でる夕べの灯火	ひこさんがわ夢の会
1月1日	火	嘉麻市	嘉麻市嘉穂 若水くみ 遠賀川源流 ILOVE遠賀川in嘉穂	NPO法人遠賀川流域住民の会

遠賀川流域だより

発行 国土交通省遠賀川河川事務所
 住所 直方市溝堀1丁目1-1
 電話 (0949) 22-1830
 FAX (0949) 22-2859
 HPアドレス <http://www.qsr.mlit.go.jp/onga/>

皆様のご意見、ご感想をお寄せください。



協力 NPO法人遠賀川流域住民の会
 電話 0948-22-3535
<http://www.ongagawa.jp/>